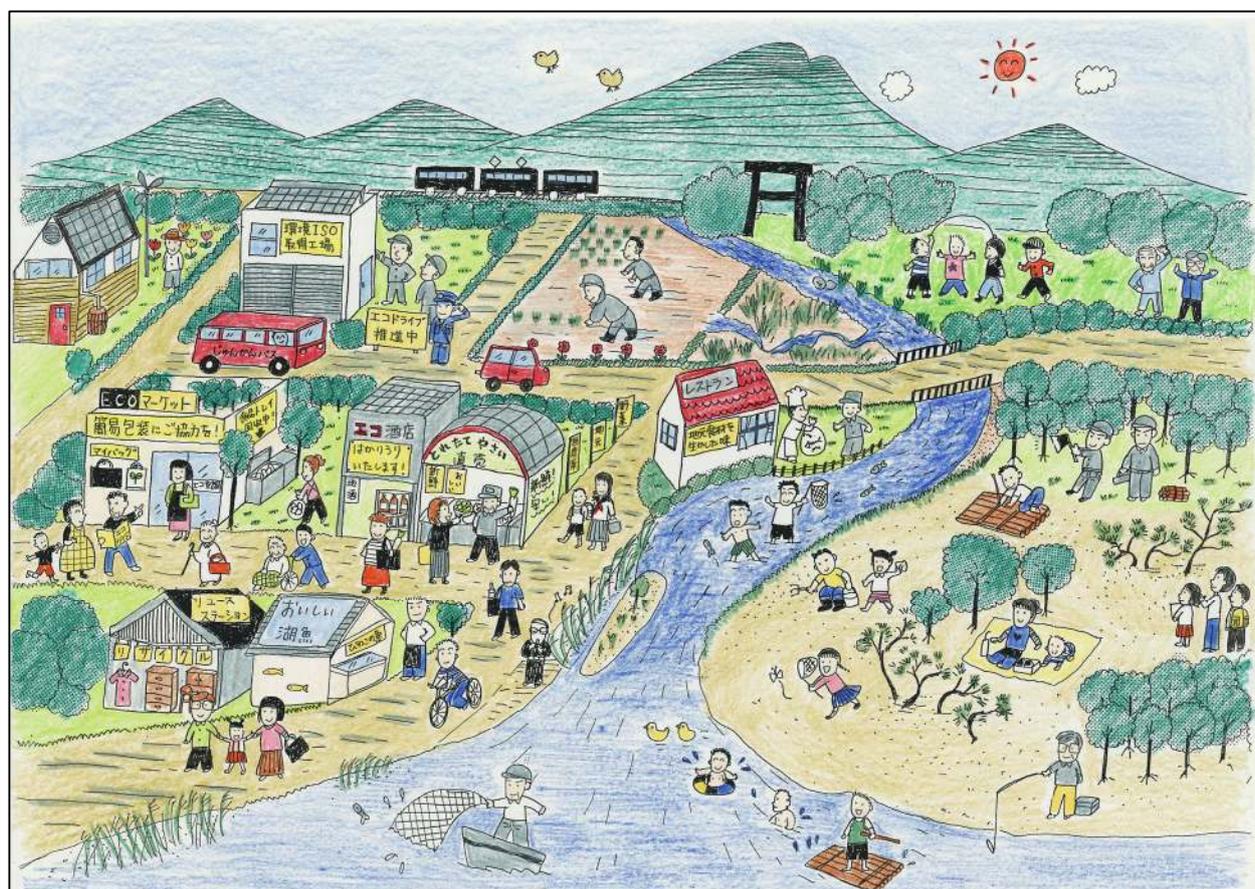


環境基本計画推進会議

「水と緑・安心の野洲」



平成28年度 通常総会 議案書



と き:平成28年4月22日(金) 14:00~16:00

ところ:市民活動支援センター(図書館) ホール

環境基本計画推進会議「水と緑・安心の野洲」

平成28年度 通常総会 次第

平成 28 年 4月 22日（金） 14：00～
市民活動支援センター（図書館） ホール

1. 開 会

2. 挨拶

3. 発 表

「事業所における環境に関する取り組みについて」
株式会社村田製作所 野洲事業所 水野 剛 様

4. 議 事

- 第1号議案 補欠役員の選出（案）について
- 第2号議案 平成 27 年度事業報告について
- 第3号議案 平成 27 年度収支決算について
- 第4号議案 平成 28 年度事業計画（案）について
- 第5号議案 平成 28 年度予算（案）について

5. そ の 他

6. 閉 会

第1号議案

補欠役員の選出（案）について

環境基本計画推進会議「水と緑・安心の野洲」規約第7条により、「運営委員は、部会より推薦された会員を総会で承認する」ことから、また同規約の第8条の第2項により、「役員に欠員が生じたときは、補欠役員を置くことができる。この場合における役員の任期は、前任者の残任期間とする」とあることから、以下の者を選出する。

○補欠役員の選出（案）

エコ資源部会

中根 隆男 （旧）

林 かずみ （新）

第2号議案

平成27年度 事業報告

各部会の活動実績（総括）

平成27年度は、これまでの活動を継続して行っていく中で、関係団体・組織との連携や活動の積極的な情報発信を通じて、プロジェクトの周知と活動の参加を呼びかけた。その結果、学習会や啓発イベントのほか、関連事業を含めると計188回開催し、延べ約6,241人の市民の参加を得ることができた。また、市ホームページへの情報掲載、ニュースレターの発行による広報活動等を通じて、各種啓発や周知を図った。

自然部会は、昨年度から引き続き県のマザーレイク21計画との連携を図るなか、里山から川、緑地、田畑、そしてびわ湖までの一連の自然環境の保全をめざした活動を展開した。各プロジェクトにおける活動主体が中心となり、多くの市民に対してプロジェクトの趣旨を普及・啓発するとともに、野洲市の自然に親しむ機会を提供した。

エコ資源部会は、環境負荷の少ない循環型社会の構築に向けた仕組みづくりをめざし、市民参加によるプロジェクトの実践（廃食油の利用促進・リユースの促進）で、3R推進を図った。また、まち・くらし部会と合同で先進的な取り組み事例への視察研修会や新クリーンセンターにかかる学習会を実施し、情報・意見交換も図りながら、会員の資質向上に努めた。

まち・くらし部会は、一人ひとりが身近な暮らしで実践できる環境に配慮した行動（レジ袋の使用削減、エコドライブ）を普及させるため、キャンペーンや講習会を開催し、改めてライフスタイルの見直しを呼びかけた。また、出前講座では新たなメニュー（紙芝居）を取り入れ、啓発講座の拡充に努め、市内小学校や自治会館等で実施した。

運営委員会の開催

- | | | |
|---------------|-----------------|--------------------|
| 第1回（平成27年4月） | 総会の内容について | 等 |
| 第2回（平成27年6月） | 第2次環境基本計画策定に関する | こと、予算確認 等 |
| 第3回（平成27年8月） | 〃 | 、ニュースレター確認 等 |
| 第4回（平成27年10月） | 〃 | 、予算執行状況確認 等 |
| 第5回（平成27年12月） | 〃 | 、総会までのスケジュール確認 等 |
| 第6回（平成28年2月） | 〃 | 、総会に向けた調整・確認について 等 |

平成 27 年度 プロジェクト活動の実績

自然分野		【 自然部会 】		※人数は概算含む	
	概 要	回数	人数	プロジェクト名	
川	家棟川エコ道覧※砂浜学習会含む	20	499	・「おらが川」人が親しめる きれいな川づくり	
	ホテルの住める川づくり	8	134		
	ピワマスを戻すプロジェクト・フォーラム	1	45		
	家棟川・びわ湖清掃活動	11	236		
	家棟川流域生態調査	9	191		
	小計	49	1,105		
里山	里山保全活動	39	465	・野洲の里山の自然に 触れよう、知ろう ・野洲の自然を次世代につなぐ 「自然案内人」を増やそう ・山の木を活用し、市民の手で 野洲の山を守ろう	
	子どもや市民が里山に親しむ活動	12	543		
	「森づくり塾」	5	129		
	野洲の山を知る探索	9	85		
	小計	65	1,222		
びわ湖	びわ湖に親しむイベント(あやめ浜まつり)	1	122	・琵琶湖を身近なものにしよう ・葦地帯をみんなで作ろう	
	漁民の森づくり事業	1	197		
	びわ湖学習会・ヨシ苗ポットづくり体験	2	238		
	ヨシ群落再生事業(ヨシ植え)	2	722		
	小計	6	1,279		
緑	河辺林保全活動	42	588	・河畔林の再生 ・まちなかの緑ボリューム アップ大作戦 ・鎮守の森再生	
	野洲川北流跡自然の森カブトムシ幼虫観察会	2	220		
	野洲川北流跡自然の森タケノコ堀イベント	1	31		
	野洲川北流跡自然の森秋の自然観察会	1	33		
	樹木の管理と剪定講習会	1	2		
	小計	47	874		
農業	生き物観察会	1	200	・環境保全型農業推進計画	
	小計	1	200		
分 野 (部 会) 小 計		168	4,680		

ごみ・資源分野		【 エコ・資源部会 】		※人数は概算含む	
	概 要	回数	人数	プロジェクト名	
環境学習	出前講座(リサイクルペーパーアート)	—	—	・みんなで進める環境学習	
廃食油再利用	出前講座(エコキャンドルづくり)	1	20	・天ぷら油を捨てずにエネル ギー(BDF)化しよう	
	先進事例研修	1	21		
リユース	リユース物品無償譲渡会	2	121	・お得で楽しいリユースステ ーションをつくろう	
分 野 (部 会) 小 計		4	162		

まち・くらし分野		【 まち・くらし部会 】		※人数は概算含む	
	概 要	回数	人数	プロジェクト名	
ごみ減量	出前講座(人形劇・紙芝居・エコダンス・分別クイズ)	11	484	・ごみを出さな売り方・買い方 が広がるまち	
	マイバック持参、レジ袋削減啓発キャンペーン	1	11		
	小計	12	495		
エコドライブ	エコドライブ教習会	1	15	・一人ひとりが自動車社会を 見直す「エコドライブ」活動	
事業所 環境保全	環境研修会	2	39	・事業所環境保全取り組み向 上プロジェクト	
分 野 (部 会) 小 計		15	549		

その他・関連		【 自然部会 】		※人数は概算含む	
	概 要	回数	人数	プロジェクト名	
	収穫祭	1	850	・山・川・里・湖の「つながり」 再生プロジェクト	
小 計		1	850		

合 計		回数	人数	※人数は概算含む	
		188	6,241		

※参考

平成19年度	32回	1,445人	平成22年度	95回	3,692人	平成25年度	206回	5,614人
平成20年度	66回	1,901人	平成23年度	124回	4,015人	平成26年度	209回	5,786人
平成21年度	111回	3,888人	平成24年度	149回	4,890人			

1. プロジェクト：『おらが川』人が親しめるきれいな川づくり

① 家棟川エコ遊覧の開催（4月～11月 20回実施 延べ499人参加）

市内自治会や老人会などと連携し、市内の河川の多くが流入する家棟川で手漕ぎの小型舟に乗り、豊かな生態系の観察を行う一方、河川の水質や散在性ごみの状況を直接実感する学習会を開催した。

② ホタルの住める川づくり（延べ8回 延べ134名参加）

例年に引き続き、ホタルの幼虫を飼育し川に放流した。1年幼虫は多く育ったものの、成虫の数は少ない結果となった。野田自治会では観察会を実施し、堤自治会ではホタルの飛翔が見受けられた。ただ、地元で周知したところ翌日には捕られてしまったのか、翌日には見られなくなった。

③ ビワマスを戻す取り組み

（フォーラムの開催 平成27年11月22日 45名参加）

家棟川を遡上するビワマスの生息環境を保全・再生することを通じて、まちづくりや地域活性化につなげていくことを目的とする「家棟川・童子川・中ノ池川にビワマスを戻すプロジェクト」を、平成27年8月5日に結成した。これを記念し、またプロジェクトを代表するNPO 法人家棟川流域観光船が公益社団法人日本水環境学会より「水環境文化賞」を受賞されたことも記念としてフォーラムを開催した。

④ 河川清掃活動（年間11回実施 延べ236名参加）

市民団体や地域、企業などとも連携し、家棟川を中心に、あやめ浜、新川、童子川、中ノ池川など積極的な活動を実施した。生活ごみが多く流れてきているのが現状であるが、根気強く継続してゴミの回収を行った。

⑤ 生態回廊の再生（年間9回実施 延べ191名参加）

琵琶湖環境科学研究センターの協力のもと、家棟川流域8ヶ所で生態調査を実施。貴重なタナゴなどの種が確認されている。また、上記③のとおり、遡上しているビワマスの生息環境を保全するため、企業や県、関係機関等と連携し産卵床の整備を行った。

⑥ 活動の評価

淡海ネットワークセンターにおいて、「淡海のつなぐ、ひらく、みらい賞」を受賞した。これは、生態回廊再生を目指すビワマスが遡上できる川づくりに対して評価された。

2. プロジェクト：①野洲の里山の自然に触れよう、知ろう
②野洲の自然を次世代につなぐ「自然案内人」を増やそう
③山の木を活用し、市民の手で野洲の山を守ろう

① 里山・林道の保全作業（39回実施 延べ465人参加）

➤ 小堤生産森林組合のエリア

城山の主郭の草刈りと曲輪の整備、登山道入口の路肩整備と谷川の整備を中心に行った。城山という遺跡を地元の方々が整備できないでいる状況の中で、保存維持に努めることができた。

➤ 大篠原生産森林組合のエリア

大山側溪流の整備、旧林道の道整備、また活動事業「タムシバ山花登山」「篠原小学校の伊勢道峠越え」「野洲幼稚園の山散策」「森づくり塾」のための会場整備などを行った。

② 子どもや市民が里山に親しむ活動（12回実施 延べ543人参加）

例年実施し定着化している活動で、市民や子どもたちに地元の山の現状や素晴らしさを伝え、里山の自然の大切さ、重要性について理解を深めていただいている。主なイベントは以下のとおり。

- 篠原小学校「伊勢道峠越え」案内（平成27年5月1日169人参加）
- タムシバ山から城山登山（平成27年5月10日29人参加）
- 野洲幼稚園里山自然観察（平成27年11月11日175人参加）
- 天山の古墳探索ハイキング（平成27年11月28日46人参加）
- 城山初日の出登山（平成28年1月1日48人参加）

③ 森づくり塾の実施（5回実施 延べ129人参加）

山部会員や市民が山作業の仕方やしき物・山作業・里山の歴史について実習・学習し、里山案内人としての技量や知識を得るために実施。今年度は4期目で、4回の実施と補講1回を実施した。

- 1回目：コンパスと地図で山歩き（平成27年5月31日32人参加）
- 2回目：里山昆虫観察会（平成27年7月12日31人参加）
- 3回目：間伐と道具の手入れ（平成27年10月25日27人参加）
- 4回目：三上山管理の歴史（平成27年11月8日19人参加）
- 5回目（補講）：コンパスと地図で山歩き（平成27年12月5日20人参加）

④ 野洲の山を知る探索（9回実施 延べ85人参加）

毎月第4土曜日に、里山の現状や季節ごとに変化する里山の面白さを知る探索をした。また各種事業の下見としても実施し、活動当日の登山コース等の確認を行った。主な内容は以下のとおり。

- 森づくり塾のための下見
- 鏡山や天山、菩提寺山のほか、安土観音寺城の城跡探索

⑤ 他団体やプロジェクトとの協働活動・交流

コミュニティセンターでの収穫祭に参加し、山部会の活動をPRした。また、自然分野の川プロジェクトと協働で家棟川・びわ湖の生態調査に参加した。さらに、緑の推進委員会とも協働による森林整備を行った。

⑥ 野洲山の辺の道 歴史ハイキングコース

コースマップが出来上がり、市や自治会等に活用いただくよう要請しているが、いまのところまだ活用までは至っていない。今後イベント等で活用をしていく予定である。

⑦ 新クリーンセンター建設造成工事にかかる「タゴガエル生息調査」

クリーンセンター裏山周辺の環境変化に伴う生物の生息状況調査として、春（5月）と秋（9月）に2回実施した。春の調査時には、3箇所を個体を確認、1箇所を鳴き声を確認したが、秋の調査時は見つからなかった。

3. プロジェクト：琵琶湖を身近なものにしよう

① 砂浜学習会の開催

（平成27年5月23日 63人参加）

船に乗って川の話や環境の話聞き、また刺網や船上での投網で取れた魚の生態調査を行った。その後、あやめ浜へ移動し、湖魚料理を食べながら、びわ湖の今と昔についてのお話を聞き学んだ。

② あやめ浜まつりの開催（平成27年8月18日 122人参加）

雨天による順延開催となったが、例年同様多くの方に参加いただけた。あやめ港から沖ノ島周辺を遊覧するクルージング体験、あやめ浜でのシジミ採り体験、湖魚料理による食文化体験など、びわ湖に親しみながら、びわ湖について学ぶことで、水環境の保全意識の高揚を図る啓発イベントとなった。

③ 漁民の森づくり事業の実施（平成28年3月6日 197人参加）

びわ湖の水の源を守るために、漁業関係者や生産森林組合と協力し、団体・企業などの参加のもと、水源となる山（大篠原地先）の植樹整備を実施した。活動終了時には、ブラックバスのフライや地元野菜を使ったカレーが振舞われ好評であった。

④ 湖岸周辺の清掃活動（平成27年4月～平成28年3月）

あやめ浜や周辺の清掃を年間通じて実施したところ、毎度多量の散在性ごみや漂着ごみを回収した。クリーンセンターへの搬入量は、可燃ごみが815kg、不燃ごみが305kg、粗大ごみが760kgであった。

4. プロジェクト：葦地帯をみんなで増やそう

① びわ湖環境学習とヨシ苗づくりの実施(中主小5年生対象 延べ238人)

公益財団法人淡海環境保全財団と連携し、中主小学校5年生を対象にした環境学習で、びわ湖とヨシについて学習会を行った。また、ヨシ苗ポットづくりも体験し、学校の中庭にある池でヨシ苗の育苗を行った。育てられたヨシ苗はびわ湖岸へ移植した。

1回目：びわ湖環境学習会（平成27年6月22日 119人参加）

2回目：ヨシ苗ポットづくり、育苗（平成27年7月6日 119人参加）

② ヨシ群落再生事業の実施

➤ 滋賀ダイハツによる植栽（平成27年11月3日 約430人）

➤ ヨシ植栽イベント（平成27年11月7日 292人）

ヨシ群落を再生しようと、企業によるヨシ植栽の他、各種団体や事業所等と連携し、ヨシの植栽を行う市民参加型イベントも開催した。企業からの参加者も多く、合計2,500株のヨシ苗ポットを植栽した。またイベントでは、湖岸の景観を保全するため、松林の保全（下草刈作業）を行った。

5. プロジェクト：①まちなかの緑ボリュームアップ大作戦 ②河辺林の再生、③鎮守の森再生

① 河辺林の保全活動（42回実施 延べ588人参加）

野洲川河辺林（野洲川北流跡自然の森）において、毎月第1火曜日、第3土曜日および第4木曜日の定例活動、そしてイベント前の臨時活動日にて保全活動を実施。主な保全活動としては、散策路が通行できるよう竹林伐採の整備のほか、実生ひろば・第二ひろばを中心とした実生育成のための草刈を行った。また、オムロン(株)、京セラ(株)事業所社員の方々と協働で竹伐採活動も行った。

② 河辺林での自然林学習イベント（4回実施 延べ327人参加）

主な内容は以下のとおり。

➤ カブトムシ幼虫観察会（北野小：平成27年5月11日 約70人）

（野洲小：平成27年5月27日 約150人）

北野小学校3年生および野洲小学校2年生を対象に、野洲川北流跡自然の森にて、カブトムシの幼虫観察会を実施。森の中を散策しての自然体験活動をした。

➤ タケノコ掘りイベント（平成27年6月13日 31人参加）

小学生以下とその保護者を対象に、タケノコ採りをして焼きタケノコの試食をし、身近な河辺林の自然の恵みを体感できた。

- 秋の自然観察会（平成 27 年 11 月 22 日 33 人参加）
子どもと保護者を対象にした森の中を巡る自然観察会を開催。森の巡回や竹の貯金箱づくりといった体験をし、また竹飯や焼芋も味わい、楽しみながらの自然観察会となった。

③ 公共施設の緑化

さざなみホール敷地内の樹木の施肥と土盛りを行い、その結果、樹木は生き生きとしており、肥料や土の効果を確認できた。また野洲図書館の樹木の施肥、養生を「レイカ野洲」と協働で実施した。

④ 鎮守の森の保全

八夫地域にある高木神社にて、地域の子ども会と自治会との協働で、子どもたちが神社の森にある 25 種類の樹木に名札プレートをつけている。

⑤ 緑化のための研修・啓蒙

- 樹木の管理と剪定講習会（平成 28 年 3 月 26 日 20 人参加）
樹木医を講師として、一般参加者等を対象に、樹木管理の基礎と剪定講習会を実施。午前は防災センターにて樹木の管理に関する講義を行い、午後はコミュニティセンターきたのにて剪定実習を実施した。

6. プロジェクト：環境保全型農業推進計画

① 魚のゆりかご水田事業の啓発

魚道を整備し生態系に配慮することにより、びわ湖から遡上するフナやナマズなどを水田で育てる減農薬栽培を 2 地区（安治、須原）で実施した。面積は、安治：3,300 a、須原：250 a の合計：3,550 a。

- 生き物観察会の実施（須原地区で実施）（6 月 20 日、200 人参加）
子どもを対象に、水田で孵化したフナやナマズなどの観察会を実施し、田んぼで生きものが安心して暮らせることを実体験を通じて学習した。
- 魚のゆりかご水田米の普及啓発（10 月 3 日）
JA 等と連携して、おうみんちでの収穫感謝祭および野洲市農山漁村活性化推進協議会の収穫祭（コミセンひょうず）にて「魚のゆりかご水田米」の PR を行った。

② 環境保全型農業の普及

平成 27 年度における市内の無農薬有機栽培面積は 2,547 a であり、地域や法人の取り組みにより、昨年度の 1,388 a より約 1.8 倍の増加となった。（平成 27 年度環境保全型農業直接支払交付金の状況より）

1. プロジェクト：みんなで進める環境学習

① 環境学習会の実施

古紙を利用し、紙漉きの要領でつくるリサイクルペーパーアートについて、より知っていただくとうと大型作品（80cm×60cm）を作製した。今後の出前講座を通して、雑がみ回収等周知啓発していく予定をしている。

2. プロジェクト：てんぷら油を捨てずにエネルギー（BDF）化しよう

① 使用済み（賞味期限切れ含む）てんぷら油の回収

市民団体エコロジーマーケットやすの会と連携し、毎月第4土曜日に回収。なお市の回収BOXで使用済み天ぷら油の回収も実施した。

- 回収量L：今年度 4,828 リットル（前年度 5,136 リットル）
 - ・エコロジーマーケットやすの会 1,328 リットル
 - ・野洲市回収BOX（市内13箇所） 3,500 リットル
- エコロジーマーケットやすの会は、市民活動としてこれまで毎月第4土曜日に使用済み天ぷら油の回収を継続して行ってきたが、平成27年度から、トラックによる廃食油回収はNPO 碧いびわ湖に引継ぎ、回収をしている。

② エコキャンドルづくり講座の実施（1回実施 20人参加）

使用済みてんぷら油を捨てずに有効活用することで、身近な環境のことについて考えていただくとうと、楽しく学べるエコキャンドルづくりの出前講座を、万葉台自治会館で実施した。

③ 先進地への視察（平成28年2月2日 21人参加）

リサイクルの先進的な取り組みについて視察すべく、廃食油を回収・精製し石けんとして製品化するリサイクル業者へ訪問した。また同日には、廃棄された磁食器類を再び食器類へ製品化するリサイクル業者へも訪問した。これらの先進的に取り組まれる事例を視察することで、リデュースやリサイクルのための知識や情報を収集し、今後の部会活動に活かしていくことを図った。なお、本視察はリデュースに関することも含まれるので、ごみを減らそうプロジェクトと合同研修として実施した。

- 視察研修先：有限会社ヤマダ油脂（滋賀県豊郷町）
神明リフラックス株式会社（岐阜県土岐市）

3. プロジェクト：お得で楽しいリユースステーションをつくろう

① リユースセンターでの無償譲渡会実施

廃棄物として出された粗大ごみや陶器類等の有効利用を促進するため、リユース無償譲渡会を実施した。また、リユース会場には野洲市商工会旧中支所の遊休施設を活用し、より効率的な運営方法について都度協議を重ね、物品の陳列や配置等の整備を行った。

➤ 譲渡会の実績

(平成27年7月26日開催分 50人参加)

出品数	成立数	譲渡率	その他
48点	20点	41.7%	陶磁器、小物等多数譲渡

(平成27年12月12日開催分 71人参加)

出品数	成立数	譲渡率	その他
56点	28点	50.0%	陶磁器、小物等多数譲渡

※出品および成立数の数値は、タンスや机などの大型物品の数。

② 新野洲クリーンセンターにかかる学習会(平成27年9月16日 20人参加)

平成28年10月に新しいクリーンセンターの稼動が予定されており、クリーンセンター職員と情報、意見交換を行い、これにかかる学習会を開催した。内容は、プラごみの分別変更、雑がみの処理、ごみ減量等の市民生活に直接かわる事案で、これらの課題に取り組んでいる「エコ資源部会」と「ごみを減らそうプロジェクト」が合同で学習し、それぞれの部会員の知識を深めた。

まち・くらし分野 事業報告

1. プロジェクト：ごみを出さない売り方・買い方が広がるまち

① 出前講座、キャンペーンの実施

野洲市を背景にした舞台セットとオリジナルストーリーで、子どもたちにもわかりやすく学べる環境啓発人形劇の出前講座を、コミセンやふれあいサロン等で実施した。また、ごみ減量・分別クイズやエコダンスもあわせて実施した。さらに新しい出前講座のメニューとして紙芝居を取り入れ、学童保育所や人権 YASU の会場にて実演し、ごみを減らす啓発を行った。

レジ袋削減・マイバッグ持参推進キャンペーンでは、滋賀県や市と連携し、スーパー店頭でマイバッグ持参の呼びかけを行った。またキャンペーンに先立ち、市内小売業者43店舗と各自治会・コミュニティーセンター等に啓発ポスター（151枚）の掲示を依頼した。

➤ 出前講座及びキャンペーンの実績

実施日	会場	参加者	内容
平成27年 4月15日	栄自治会館	栄ふれあいサロン 40人	人形劇、エコダンス
4月23日	コミセンひょうず	エルダー婦人会総会 26人	人形劇、エコダンス
6月5日	南草津市民交流センター	滋賀県生活学校総会 50人	人形劇、エコダンス
6月7日	健康福祉センター	やすまる広場 25人	人形劇、エコダンス
6月8日	祇王小学校	4年生 100人	人形劇、エコダンス、分別クイズ
7月30日	祇王学童保育所	小学生 102人	紙芝居、エコダンス、分別クイズ
8月12日	三上学童保育所	小学生 22人	紙芝居、エコダンス、分別クイズ
9月7日	篠原小学校	4年生 26人	人形劇、エコダンス、分別クイズ
10月19日	市内2店舗	買い物客啓発ティッシュ配布	マイバッグ持参・啓発
平成28年 2月21日	アルプラザ野洲	人権YASU来場者 40人	紙芝居、エコダンス
3月11日	江部自治会館	野洲ふれあいサロン 11人	人形劇、エコダンス
3月23日	大篠原自治会館	のどかの家利用者 42人	人形劇、エコダンス

② 先進地への視察 および 新野洲クリーンセンターにかかる学習会

3Rの推進に関する理解を深めるべく、循環型社会の形成に取り組まれている先進地視察を、先述の通り、エコ資源部会と合同で実施した。

- 視察研修先：有限会社ヤマダ油脂（滋賀県豊郷町）
神明リフラックス株式会社（岐阜県土岐市）

また、新野洲クリーンセンターにかかる学習会についても、先述の通り、エコ資源部会と合同で行った。

2. プロジェクト：一人ひとりが自動車社会を見直す『エコドライブ』活動

① エコドライブセミナーの開催（平成27年11月12日 15人参加）

交通分野での温室効果ガス削減を目的に、省エネ運転を実践するエコドライブの普及を図るため、実車を用いたエコドライブ教習会を実施した。参加者全員において燃費向上の改善が見られ、すぐ実践できる取り組みとして実感できた教習会となった。

3. プロジェクト：事業所環境保全取り組み向上プロジェクト

① 環境研修会の開催

（平成27年8月27日 18人参加／平成28年1月21日 21人参加）

湖南・甲賀環境協会、野洲工業会および野洲市環境保全協定締結事業所等を対象に、事業所における環境保全への取り組みに関する研修を2回実施した。8月の研修内容は、騒音と振動に関すること、1月の研修内容は産業廃棄物の適正処理に関することをテーマとした。

その他・関連 事業報告

1. 山・川・里・湖の『つながり』再生事業

収穫祭の開催（平成27年10月24日 約850名参加）

野洲市農山漁村活性化推進協議会に参画し、「つながり」再生プロジェクトの企画イベントである収穫祭で、山・川・里・湖の地産地消を図った。

2. 緑のカーテン事業

事務局の環境課では、今年もゴーヤの種から育苗したものを公共施設に配布し「みどりのカーテン」を広めた。また市役所別館2階において「よしず」を設置し、直射日光を避け室温上昇を抑制した。

第3号議案

平成 27 年度 収支決算報告

(収入)

単位：円

科目	当初予算額	補正予算額	予算現額	決算額	差引き	備 考
会 費	119,000	0	119,000	105,000	△ 14,000	個人 85 (過年度分 1) 市民団体 17 (過年度分 0) 自治会 19 (過年度分 0) 企業 12 (過年度分 1)
補助金	1,600,000	0	1,600,000	1,600,000	0	野洲市 (環境基本計画推進事業補助金)
繰越金	188,032	0	188,032	188,032	0	前年度繰越金
雑入	1,968	0	1,968	678	△ 1,290	預金利子 出前講座材料負担金等
合 計	1,909,000	0	1,909,000	1,893,710	△ 15,290	

(支出)

単位：円

科目	当初予算額	補正予算額	予算現額	決算額	差引き	備 考
事業費	1,561,000	40,000	1,601,000	1,599,950	1,050	自然部会 1,153,949 円 エコ資源部会 175,587 円 まち・くらし部会 269,376 円 緑のカーテン 1,038 円
事務費	230,000	△ 40,000	190,000	175,694	14,306	通信運搬費、消耗品費等
予備費	118,000	0	118,000	0	118,000	
合 計	1,909,000	0	1,909,000	1,775,644	133,356	

平成 27 年度 収支決算の結果

収入決算額 1,893,710 円

支出決算額 1,775,644 円

収支差引き額 118,066 円

収支決算による差引き額 118,066 円は、平成 28 年度に繰越する。

平成27年度 環境基本計画推進会議「水と緑・安心の野洲」

会計監査報告

監査結果

平成27年度環境基本計画推進会議「水と緑・安心の野洲」の収支決算について監査を行った結果、帳簿の記載及び領収書等の関係書類はいずれも適正に処理され、決算金額は正確であったので報告します。

平成28年4月11日

監事 中塚 勝 

平成28年4月11日

監事 橋本彌壽雄 

第4号議案

平成28年度 事業計画（案）

各部会の活動方針

これまでの活動を継続して行っていく中で、関係団体・組織との連携や活動の積極的な情報発信を通じて、プロジェクトの更なる展開と活動の成果をめざす。また、より市民が参加できるよう周知や活動のPRを図り、会員をはじめ環境保全活動の実践者との連携を深めていく。なお、当該年度が第1次環境基本計画の最終年度となる。

自然部会は、県のマザーレイク21計画とも引き続き連携を図り、里山から川、緑地、田畑、そしてびわ湖までの一連の自然環境の保全をめざした活動を展開することで、多くの市民に対してプロジェクトの趣旨を普及啓発するとともに、活動の賛同者を増やしていく。

エコ資源部会は、環境負荷の少ない循環型社会の構築に向けた仕組みづくりを行うため、市民が楽しみながら参加できるプロジェクトの実践を進める。また平成28年10月に稼働予定している新クリーンセンターにおいて、リユースの効率的な運営や資源の有効活用等を検討し、将来を見据えたリユース展示譲渡会の開催をする。

まち・くらし部会は、一人ひとりが身近な暮らしで実践できる環境に配慮した行動（レジ袋の使用削減、マイバッグ持参呼びかけ、エコドライブ）を普及させるため、事業者や他の関係団体と連携した仕組みを構築することで活動の成果をめざし、市内小学校等への出前講座も積極的に実施する。

自然分野 事業計画

1. プロジェクト：『おらが川』人が親しめるきれいな川づくり

予算 250 千円

- ① 家棟川エコ遊覧（櫓漕ぎ体験、自然観察学習船）の運航（4月～3月予定）
- ② ホタルの住める川づくり
- ③ ビワマスを戻す河川環境の保全・再生
- ④ 河川清掃活動
- ⑤ 家棟川流域の生態調査

2. プロジェクト：①野洲の里山の自然に触れよう、知ろう

②野洲の自然を次世代につなぐ「自然案内人」を増やそう

③山の木を活用し、市民の手で野洲の山を守ろう

予算 180 千円

- ① 里山・林道の保全作業、間伐材の活用、歴史の道や場所の保全
特に城山の整備を重点的に行う。
山作業は第1、第2土曜日、第3火曜日に行う。
第4土曜日は、野洲の山を知る探索を行う。
- ② 子どもや市民が里山に親しむ活動
春 4月9日 春のタムシバ山 花登山
5月2日 篠原小学校 伊勢道峠越え案内
秋 11月上旬 篠原学区のトレトレ祭りに参加
11月下旬 秋の里山登山
- ③ 第5期「森づくり塾」の開催
i 6月5日 里山の歴史を学ぶ
「塚岩古墳群（南桜）と菩提寺山展望台へ」
ii 12月11日 「間伐材など自然素材でクラフト作り」と
地球市民の森でボランティア体験
- ④ その他の活動・取り組みとして
 - 新野洲クリーンセンター裏山のタゴガエル生態調査を引き続き行う。
 - 他団体（地元生産森林組合等）や他プロジェクトとの協働活動を進める。
 - 里山の歴史を知る上で、他の地区の山城の保存管理状況など見学する。

3. プロジェクト：琵琶湖を身近なものにしよう

予算 220 千円

- ① 家棟川エコ遊覧、湖魚食の試食、砂浜学習の開催（5月21日）
- ② あやめ浜まつりの開催（8月予定）
- ③ びわ湖の水源地となる里山への植樹活動（冬予定）

4. プロジェクト：葦地帯をみんなで増やそう

予算 260 千円

- ① 中主小学校でのヨシ苗の栽培などを通じた環境学習の実施（6月予定）
- ② 市民参加によるヨシ群落の保全を実施（秋冬予定）
- ③ 県の自然再生事業と連携し、ヨシ群落再生を目指す

5. プロジェクト：①まちなかの緑ボリュームアップ大作戦

②河辺林の再生

③鎮守の森再生

予算 150 千円

- ① 野洲川河辺林（自然林）の保護育成
（毎月第1火曜日、第3土曜日および第4木曜日の定例活動）
- ② 河辺林での自然林学習イベントの開催
- ③ 市内の緑化推進、啓発
- ④ 鎮守の森の再生
- ⑤ 樹木の管理講習会の実施

6. プロジェクト：環境保全型農業推進計画

予算 10 千円

- ① 魚のゆりかご水田事業の啓発

エコ・資源分野 事業計画

1. プロジェクト：みんなで進める環境学習

予算 55 千円

- ① 市民を対象とした環境学習会を実施
 - 古紙を使った「リサイクルペーパーアート」の出前講座の実施
 - 参加者募集型企画の検討
 - 先進事例視察等

2. プロジェクト：てんぷら油を捨てずにエネルギー（BDF）化しよう

予算 18 千円

- ① 市民団体や NPO 法人と連携して廃食油の回収を引き続き行う。
- ② 廃食油のリサイクルを楽しむ・使う方法を紹介し、啓発を行う。
 - 廃食油を使った「エコキャンドルづくり」の出前講座の実施
 - 参加者募集型企画の検討

3. プロジェクト：お得で楽しいリユースステーションをつくろう

予算 34 千円

- ① リユース品の提供と譲渡会への参加を呼びかける
- ② 新しいクリーンセンターでより良いリユース運営を目指し検討していく。
- ③ リユース品の適正な譲渡方法（公平性、趣旨理解等）を整理し実施する。

まち・くらし分野 事業計画

1. プロジェクト：ごみを出さない売り方・買い方が広がるまち

予算 100 千円

- ① マイバッグ持参推進活動（キャンペーンの実施）
- ② 新クリーンセンター稼動を見据えたごみ減量の重要性を広く市民に啓発
- ③ ごみ分別マナーの啓発
- ④ 出前講座の継続
- ⑤ 環境問題・ごみ減量に関する学習会・視察研修の実施

2. プロジェクト：一人ひとりが自動車社会を見直す『エコドライブ』活動

予算 91 千円

- ① エコドライブ講習会の開催
- ② 市民や市内事業所へのエコドライブの重要性の啓発

3. プロジェクト：事業所環境保全取り組み向上プロジェクト

予算 20 千円

- ① 環境研修会の開催
 - 市内事業所を対象に、環境関連法令の制定・改正に関することや環境管理の技術等を理解し、事業所等地域環境の保全に積極的に取り組まれることを目的に実施する。

その他・関連 事業計画

1. 緑のカーテン事業

- 室温上昇を抑制し、エアコンの省エネを図り、地球温暖化対策に資することを目的に、緑のカーテンを普及する。また事務局の環境課では引き続き「よしず」を設置し、同様の効果が得られるよう実施する。

第5号議案

平成 28 年度 予算 (案)

(収入)

単位：円

科目	当初予算額	前年度当初予算額	差引き	備 考
会 費	119,000	119,000	0	個人 @ 500 × 100 人 市民団体 @ 1,000 × 20 団体 自治会 @ 1,000 × 19 団体 企業 @ 2,000 × 15 社
補助金	1,400,000	1,600,000	△ 200,000	野洲市 (環境基本計画推進事業補助金)
繰越金	118,066	188,032	△ 69,966	前年度繰越金
雑 入	934	1,968	△ 1,034	預金利子 出前講座材料負担金 等
合 計	1,638,000	1,909,000	△ 271,000	

(支出)

単位：円

科目	当初予算額	前年度当初予算額	差引き	備 考
事業費	1,388,000	1,561,000	△ 173,000	自然部会 1,070,000 円 エコ資源部会 107,000 円 まち・くらし部会 211,000 円
事務費	162,000	230,000	△ 68,000	通信運搬費 80,000 円 備品購入費 0 円 消耗品費 82,000 円
予備費	88,000	118,000	△ 30,000	
合 計	1,638,000	1,909,000	△ 271,000	